

第 1 回洋上風力発電ゾーニング協議会 議事概要

日時：平成 30 年 11 月 2 日（金）13：30～16：00

場所：久慈市役所 大会議室

出席者：三宅座長、北澤委員、浦委員、高橋（正）委員、志田委員、山田委員、濱欠委員、兼田委員、山本委員、川代委員、一田委員、戸崎委員、晴山委員、今井委員、福地委員、松本委員、高橋（久）委員、細越委員、皆川委員、嵯峨委員

1. 主な議事

○事務局より、洋上風力発電ゾーニング協議会の実施の趣旨及び今後のスケジュールについて説明を行い、協議会メンバーにより意見交換を行った。

【説明内容】

- (1) 本協議会の設立にあたって
- (2) 風力発電に係るゾーニング実証事業について
- (3) ゾーニングの手法、環境調査等の実施について

2. 主な意見等

【議事資料 No2 関係】

- ゾーニングによって、どのくらい CO₂ 削減に貢献するか、比率など示すことはできないか。必要とする規模によってゾーニングも変わるのではないか。
- ゾーニングマップ作成後に、導入の可能性があれば CO₂ 削減の貢献度等も示せると考えている。
- 久慈市での洋上風力の導入目標を示し、洋上で確保すべき必要面積を示したほうがゾーニングしやすいのではないか。現状示されている方法では、ゾーニングした際に範囲が狭く建設できない可能性がある。
- 久慈市の温室効果ガス削減の目標のうち、洋上風力発電の目標量があり、目標に向けてどう進めるか過程が大切である。
- 洋野町での事例から、漁業者の了解も得ないうちに導入目標量を示すと、風車の導入前提と捉えられかねない。慎重に進めた方がよい。
- 岩手県内の陸上風力で導入の可能性が高い地域を設定した事例がある。その結果、発電事業者の集中があり環境アセスが 2 つ、3 つ同じエリアで提示されるケースがあり、本ゾーニングにおいても考慮していく必要がある。
- 漁業関係者、市民など、地元の方々によく知っていただき、合意の上で進めていくことが大事であり、事務局の方で十分に配慮・検討してほしい。
- 「ゾーニング事業の実効性の実施」や「ゾーニングの実証の業務検討」といった表記について、何をするのか説明してほしい。
- 当初環境アセスの配慮書相当のものを作成することで、アセス手続きの時間を短縮することを目的としてスタートしたが、環境省としても検討段階にあり、今後環境省との協議を進めながら示していくことになる。

- 陸上風力の実証事業は東日本大震災後に行ったが、今回の事業とは違うのか。
- 陸上風力の実証事業については民間事業者が風況調査の部分を行った事業であり、市が行った事業ではない。また、これまでの実証事業は全て陸上で行われており、本事業は今後の洋上風力の進め方にとって重要な意味を持つと考えている。
- 久慈市は東日本大震災後、復興計画で再生可能エネルギーの一大拠点を目指す計画をしているが、送電網の脆弱等の理由でなかなか進まなかったが、今回の事業ではどうなるのか。
- 送電網の脆弱性は現在の状況は変わっていないが、本事業も来年、再来年にすぐ導入ということではなく、今後の日本の政策の中で改善していくことを期待し、改善後に導入に向けてとりかかれるように、その準備を行っている。
- 久慈市として目標があっても、風車を建てる事業者がいなければ達成できないといった別の問題もある。
- 地域性の強い事業であり、ゾーニングマニュアルに従う部分と、久慈市独自で設定すべき内容とに分けて、分かり易く進めていくべきである。

【議事資料 No3 関係】

- ゾーニングの対象区域を約 25～30km に限定した理由を教えてください。
- 水深 200 m の領海の範囲までとし、陸域から水深 50 m までは着床式、以深は浮体式の風車を検討している。
- 発電所の場合、送配電の整備もあり、どこに立地するかによって送配電の整備も変わってくるため、情報を共有してほしい。
- 種市（洋野町）でも洋上風力発電を検討しているので、そちらの情報も利用してほしい。
- 洋野町や釜石、久慈市は、岩手県内でも海洋再生エネルギーに取り組んでいる先進の地域であり、ぜひよい方向に進んでほしい。
- ゾーニングにより、CO₂ 削減への寄与やバードストライクが発生しない場所への誘致、ほかの生物への影響は無いかなど、慎重に進めなければならない。
- 他事例では、ゾーニングにより誘致しようとした場所以外に業者が建てようとしていることもあり、事業、地域活性化の仕組みも踏まえ、確実にそれぞれが望む場所に絞り込めると良い。
- 葛巻町山地の風車や種市国道沿いの大きな風車などの例から、建設する場所を十分に検討する必要がある。
- 活性化の観点から、雇用の創出や交流人口の増加、地域の経済効果に繋がる事業なのか、興味がある。
- 保全エリア、調整エリア、促進エリアの分け方について、促進エリアでも調整が必要なこともあり、優先順位をつけた示し方も検討できるのではないかと考えられる。
- 海域の利用を考えると、近隣の方だけが久慈市沖海域を使っているわけではなく、久慈市に限った話ではないと考えられる。
- 広域的な視点から、久慈市民以外の意見、洋野町や野田町の市民の意見が必要になると考えられる。

- 過去に風況調査をした際、地元の人たちとの協議では協力的であった。船舶航行量は、漁業関係者や AIS を使って情報が得られるが、利用されるのか。景観においても 5MW、7MW の大型風車となると湾奥からも良く見えると思われる。総括で石炭等の化石エネルギーをなくす方向で考えていきたい。
- 対象区域案について、風車を置いたときのイメージが湧かないため、イメージ案を示してほしい。
- 風車の距離や密度によっても景観としては見え方、圧迫感が変わってくると思われ、環境省と調整してほしい。
- 景観上、風車の位置によって見える見えない、逆に見えるところがいいなど、様々な意見が出るのではないかと。
- モニタージュの作成や視点場からの仰角等の考え方等の事例を参考に検討していく。
- 毎日風車を見るのは住民であり、市街地や海に近い集落から、景観への意見を考慮すべきではないかと思う。
- 海の景色が綺麗なところが久慈の良い所の一つだと考えており、特に久慈港から小袖に続く海岸線の景色がよく、つりがね洞から日の出が見えるといった見どころもあり、景観に注意して進めてほしい。
- ゾーニング過程では、漁業者から見て絶対に風車を建設すべきでない場所もあり、調整エリア、保全エリアの設定について、十分に漁業者と調整すべきである。
- 最近、ウニやアワビ、イカの水揚げが不安定であり、漁業者との調整には難儀することが予想され、説得力のある資料の作成と丁寧な説明をお願いしたい。全員の合意は難しいと考えられるが、最低でも漁協幹部といった方々には理解してもらえるような資料としてほしい。
- 漁協としては環境調査には協力していく。今後の設置検討においては代表者より意見したい。
- 対象範囲が広く、久慈市漁協だけではなく、県漁連、大臣許可の漁業、全国的な漁業もヒアリング対象に含めて調整する必要があると考えられる。
- 漁協には丁寧な説明が必要であるが、一方で温暖化による影響を止める、オイルタンカーの事故リスクを減らすといった側面があり、大局的に見れば漁業にもプラスになることも説明に加えると良いのではないかと思う。
- 風況調査は陸上のみで海上での風況は測定しないのか。
- データの計測は陸上の 3 点を考えているが、衛星で波の位相を見ることで風況観測をしている事例等から、洋上の風況データの取得も検討している。
- 調査は水深 50 m までとあるが、ゾーニング対象海域の全てを含む調査方法について検討すべきではないか。また、海棲哺乳類について調査すべきではないか。
- 資料には基本の手法を示しているが、鳥類は 6 回の調査の中で沖まで船を出す回を設けるなど、調査の中で対応・提案していく予定である。
- 最終的にアセス手続きの簡略化に繋げるのであれば、環境調査の項目を増やすことも必要ではないかと思う。
- 漁業に関連して、魚の通り道への影響を考える上で潮流の検討も必要になると考えられる。
- アセス簡略化であれば、本来必要な項目を示し、この事業で何が不要な項目か示す必要がある。

- 環境調査の項目について、今回の事業で4つを選定した理由を示してほしい。
- ゾーニングの前提として、既存資料をベースに整理を行うことが基本であり、既存資料で不足する部分、あるいは風力発電事業の特性を鑑み、踏みこんで調査すべき項目を選定しており、広く網羅的に収集しているが、今後配慮書に移行する際に、項目が十分であるかも検証をお行っていく予定である。現時点で選定理由については次回の協議会で示す。
- 国立公園そのもののエリアは明確だが、視点場や公園の利用施設などからの見え方も景観としては貴重な地域の資源であり、検討してほしい。
- 洋上風力でも陸上施設として変電所等ができるため、変電所からの音や電磁波等による影響の可能性を考慮して、ゾーニングする必要があると考えられる。
- 景観に関しては、「どこにどの規模の風車が立地したらどのように影響が出るか」といった逆ゾーニングのような発想も可能であると考えられる。
- ゾーニングマップは作って終わりというわけではなく、定期的に見直すことも必要であり、どのように管理していくつもりか教えてほしい。
- 実証事業であるため、所有は環境省となるが、久慈市ではマップの公開等を通して普及活動を行うことになる。更新に関して環境省から了解を得ての話になるが、最新の情報を得て、さらにブラッシュアップを行い、マップを活かしていく。
- 協議会の後半の話になると思うが、マップが活用されるよう、久慈市の条例を作るなどして、マップに従い事業地が選定されるような仕組みも今後のイメージとして持っておいた方が良い。

【議事資料 No5 関係】

- 市民へのアンケート（案）は、文章ばかりで市民がイメージしづらく、洋上での風力とはどんなものかイラストを入れるなど工夫してほしい。
- この事業を通して、市民に意識を持ってもらうことも重要であり、最初の文面に「地球温暖化、CO₂削減」などを入れるなど工夫してほしい。

以上